

奮闘する 有力企業情報

東東京支局・北東京支局 企画

高い入出庫能力と 順立って出庫を同時に実現



トヨーカネツソリューションズの「マルチシャトル」は、入出庫能力で業界ナンバーワンを誇るケース用パツファ・ストレーションシステム。従来の自動倉庫は保管を主にしたものだったが、その保管の機能に加えて仕分け、ピッキング、補充の4機能を集約し、必要な時に必要な物を入出庫できる高度な処理能力を備えている。

「入出庫場が狭い」「カテゴリ分けをしたい」など、物流現場における顧客の様々な課題を、作業の効率化と高いコストパフォーマンスにより「マルチ」に解決できる業界トップのシステムだ。

マルチシャトルは省スペース化(25%以上削減)や省エネ化(消費電力30〜70%削減)にも威力を発揮し、顧客から高い評価を得ている。

トヨーカネツソリューションズ株式会社

代表取締役社長 柳川 徹

〒136-8666 東京都江東区東砂8-19-20
電話 03(5857)3126(代表)

<http://www.tksl.co.jp>



注目のギャップファイラーシステム 通信・放送の融合サービスを支援

地上デジタル放送への完全移行に伴い、これまで使っていた地上アナログ放送の帯域が「空き地」になる。このアナログ放送の跡地を活用したスマートフォン向け新放送が来春4月から始まる。日本アンテナはこの新サービスを視聴者に快適に提供するためのシステムを積極提案する。

同社の「地上デジタル難視聴対策用ギャップファイラーシステム」は、もともと地上放送のデジタル化で課題だった山間部などの難視聴対策として開発されたもの。この技術を新放送が安定受信できない地域や高層ビル街、地下街などにも提案する。

地上デジタル難視聴対策用ギャップファイラーシステムの工事設計監理を取得している日本アンテナは、受信システムから送信システムまで一環したシステム提案が可能なのが大きな魅力だ。

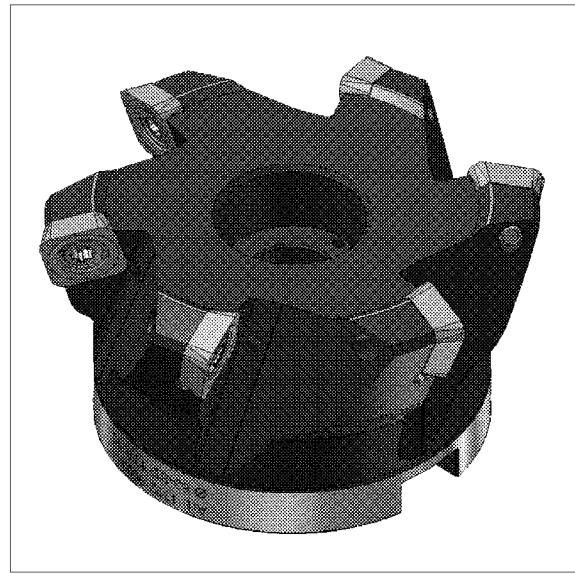
日本アンテナ株式会社

代表取締役社長 瀧澤 豊

〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8
電話 03(3893)5221(代表)

<http://www.nippon-antenna.co.jp>

フライス加工の「ビビリ」を解決 刃先は薄皮をそぐように切削



5軸機械で金属表面をフライス加工する際、課題となるのが金属表面にできる「ビビリ」と呼ばれる縞模様への対応。ノアが扱う表面フライスカッター「アレーサスフィード」(アレーサ社製)は、この課題を解決する。カッパ角15度の同製品は、同45度のカッターと比べて切削抵抗が軸方向・スピンドル方向へ流れ、径方向への力が軽減されるため、ツールの突出しを長くしてもビビリがない。

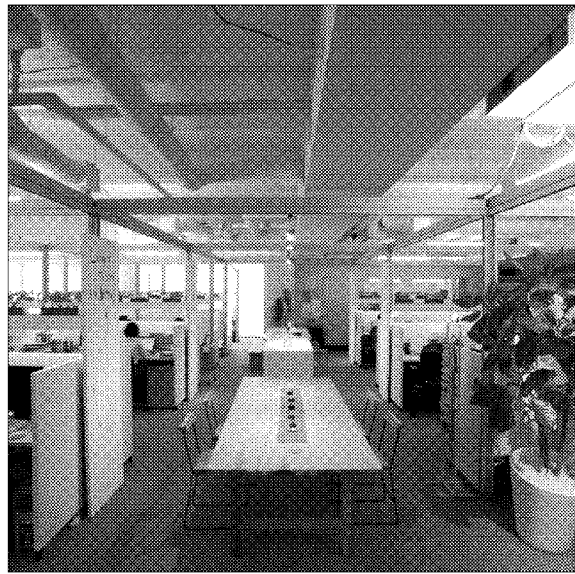
また刃先は薄皮をそぐように切削するため、スピンドルの摩耗や刃先負荷も軽減できる。ゴールドチップと超硬チップを搭載したハイレキカッターで、刃先形状と最新のPVDコーティングを選ぶことも可能。SD09、SD12のチップを利用でき、ステレンスや二相ステレンス、球状グラファイト、鋳鉄では優れた結果を得られる。

株式会社 ノ ア

〒110-8691 東京都台東区北上野1-4-3
電話 03(3845)0811(代表)

<http://www.noah-e.com>

電気使用量の「見える化」を提案 LED照明導入で二段の節電効果



内田洋行は、オフィスの電気使用量を数値やグラフなどで「見える化」するビルエネルギー管理システム「エネルギー」を、独自の制御機能と一体化した発光ダイオード(LED)照明「エピックライト」で、企業の節電対策を後押しする。

エネルギーは照明や空調、コンセントなどの設備ごとに電気使用量を計測し、専用ソフトで監視・制御する。ネットワークを介してフロアの一部分からビル全体、他の拠点などに範囲を拡大でき、ノートPCなどからでも電気使用量を把握できる。

他方、サムスンLED製の素子を内田洋行がLED照明として提供している。LED素子をモジュール単位で制御する独自システムで、同社の本社ビル全館に導入したところ、消費電力を約63%も削減した。

株式会社 内 田 洋 行

代表取締役社長 柏原 孝

〒104-8282 東京都中央区新川2-4-7
電話 03(3555)4072

<http://www.uchida.co.jp>

表面熱処理技術の総合メーカー



オリエンタルエンジニアリングは、窒化センサー制御システム付きガス軟窒化炉を発売してから多くの好評価を獲得し、納入実績は国内外で40台に迫る。

特徴は従来の赤外線アンモニア分析計方式に比べて分析応答速度が速く、センサー部において炭酸アンモニア析出の問題がないため、窒化、軟窒化、酸窒化など各種処理に対応できる。新製品は弊社独自開発した窒化センサーを使い、ガス窒化炉内の水素濃度を分析して、使用するガス流量を最適な分量に自動制御する。

自動制御により従来炉に比べ使用ガス量を2分の1・3分の2に削減でき、ランニングコスト低減に貢献する。窒化センサーは高精度でセンサー値を記録管理できるため品質保証が可能だ。

オリエンタルエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 木村 良三

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-25-1-902
電話 03(3802)4311

<http://www.oriental-eg.co.jp/>

CI導入でブランド力を強化 スカイツリー関連商品も発売



メッキ加工業のヒキフネは、2012年の創業80周年を控え、CI導入の一環として新たな企業ロゴマークを導入した。同社は精密装飾メッキ、高機能メッキ、電気鍍造による超微細金型などを手がけているが、業務領域の拡大を狙いに一般消費者向け製品を本格的に開発・販売する計画もあり、CI導入でブランド力を強化することにした。

その一般消費者向けの第一弾として、東京・墨田区で建設中の電波塔「東京スカイツリー」をデザインした金属製フックマーク(しおり)を墨田区内で限定販売している。同ツリーの公式ライセンス商品であり、金メッキを施した豪華な仕様に仕上がった。同ツリーもいよいよ12年5月に開業する予定。ヒキフネもこれを好機に新たな成長軌道を描く挑戦に臨む。

株式会社 ヒ キ フ ネ

代表取締役社長 石川 英孝

〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木2-4-12
電話 03(3696)1981

<http://www.hikifune.com>